

木田市長の

どろんどろんと
コミュニケーション



夢と希望の東京オリンピック

Vol.93

「東京オリンピック」、この言葉は年配の人達にとつては、大変懐かしい響きであり、若い人達にとつては新鮮に響くことでしょう。2020年東京オリンピックの開催は、今の日本にとつて久しぶりに明るい、良いニュースだったと思います。

福島原発事故、尖閣諸島の問題等があり、東京開催に決まるのは多分無理だろうなと私は考えていました。実際、外国メディアや投票権のあるIOCの委員たちからは盛んに福島の放射能についての質問が出ておりました。また、決定日の直前になって韓国が放射能を心配するという理由で、日本の魚の輸入制限を発表しました。このことで、尖

閣問題がからんで中国や韓国がオリンピックの日本開催を妨害しているという噂が信憑性をおびました。ただ、福島の原発事故を心配して質問を集中するということは、それだけ東京開催に関心を示しているとも言えるので、一定の脈はあるのかなとも思っていました。

東京に決まった大きな理由は、安部首相が最後のプレゼンテーションで、「放射能は0.3平方キロメートルの湾内に完全にブロックされている。」と自信たっぷりに断言したことだと言われました。私はこの説にふたつの疑問を感じました。ひとつは長い期間、各都市が誘致合戦をしてきたのに投票権のある委員たちが、

投票日当日まで自分の意思を決めずにいるだろうかというものでした。私が委員だったらとてもそうはいかないと思いましたが。全ての条件を比較しつつ決定しなければ、頑張ってきたそれぞれの国民やオリンピックを楽しみにしている世界中の人達に失礼な話です。ふたつ目の疑問は、陸上でもコントロールできない放射能汚染水を、海と続けている湾内にどうして閉じ込めることができるのだろうかということでした。これはへたをすると、後々、全世界への約束違反で大きな問題にならないければよいがと思いましたが。あの汚染水はちよつとやそつとで解決できる問題ではありません。日本中に汚染水タンクが増え続けることを願うところです。

何はともあれ、東京でオリンピックが開催されることが決まりました。見事に難しい問題を克服し、日本人の誠実さと技術力を世界に示し、晴れやかな気持ちでオリンピックを迎えられることを信じたいと思います。鳥羽市からも東京オリンピックに出場するアスリートが出るかもしれません。私も年齢的にまだ大丈夫。必ず東京へ見に行きます。

南三陸町 復興応援記



Vol.2

南三陸町を紹介します

派遣職員 松岡孝治

南三陸町へ派遣されてから半年が過ぎました。漁業集落の再生計画や集会施設整備に係る各説明会、コミュニケーションの補助事業の審査、海外交流の生徒の受け入れ業務など、多様な業務を任されています。町民のかたがたと話す機会が増えたので、顔と名前を覚えていただくようになりました。これからも、少しでも町の人達に寄り添えるように頑張っていきたいと思えます。

復興の状況は、住まいを高台に移転する防災集団移転事業が各地区で始まり、山を削って宅地の造成をしています。

目に見える形で進むと、復興への実感が湧いてきます。さて、今回は、まちの紹介をします。

南三陸町は、鳥羽市と同じリアス式海岸で形成され、海の幸が豊富で漁業と観光が盛んな町です。特に、カキ・ギンザケ・ワカメ・ホタテ・ホヤなどの養殖が盛んです。

鳥羽ではあまり食べないホヤがお酒の肴として重宝されています。私もいただいたのですが、ホヤ独特の味が意外と美味しくて、好物になりました。また、新鮮で旬な魚介類を素材にした『キラキラ丼』も名物で、キラキラ丼を目当てに南三陸町へ足を運ぶかたも多くみえます。現地へ足を運んで、海の幸などの名物を食べたり、買い物をするのも復興支援のひとつです。

ぜひ、南三陸町へ足を運んでください。



キラキラ丼